



信頼・団結・前進

=新たな時代にさらなる挑戦=

くまもと

発行 九州旅客鉄道労働組合
熊本地方本部
熊本市中央区南熊本3丁目14番1号
電話 NTT 096-373-8911
JR 094-2345
発行責任者 濱田 享 二
編集責任者 瀬戸口 貴 史
教育広報部

豊肥本線

青柳社長「今秋の運行再開目指す」

1月1日付の熊本日日新聞は、熊本地震で不通が続いている豊肥本線の肥後大津・阿蘇駅間(27.3km)について、JR九州の青柳俊彦社長が今秋の運行再開を目指していることを明らかにしたうえで、2月頃に長期運行計画を国土交通省に提出する見込みであると報じました。

豊肥本線は、2016年4月の熊本地震により発生した大規模土砂崩壊で並行する国道57号線や阿蘇大橋とともに寸断されました。記事は「12月末時点で土木工事が8割、軌道工事が3割まで進捗」と報じています。青柳社長は、未着工部分で工事が難航するところがあれば工期の延びる可能性に言及しながらも、運行再開の時期を「今秋を目指して頑張りたい」と述べました。さら



阿蘇駅に停車中のキハ185形

ダイヤ改正 下期効率化

地本は残された課題の整理に引き続き取り組む

要求が一部前進も回答は不十分

熊本地本は、1月8日に2020年3月ダイヤ改正及び下期効率化施策等に関する説明要求を申し入れ、同23日に専門協議会を開催しました。共通・運輸・営業・工務関係で合計26項目を申し入れていますが、一部で組合側の主張が受け入れられたものの、会社側回答が不十分で対立している項目もあります。

【主な前進した項目】

・熊本駅の接続改善

- ・豊肥本線の混雑対策
 - ・管理駅の負担軽減
 - ・防護装備品の配備
- その他の項目では、ホーム検知装置及び電気融雪器の導入計画を引き出したものの、導入時期が示されておらず、時期の提示を求めていきます。また、電気関係業務の効率化では、グループ会社に移管する業務の明確化や異常時対応について整理が必要であり、引き続き取り組んでいきます。

に、九州の観光面で大分と熊本を結ぶ大事なネットワークであり、復旧工事に全力を注ぐ考えを示したところ。同区間の復旧を巡って

は昨年4月に石井啓一国土交通大臣(当時)が2020年度中の運転再開を発表しましたが、支社も具体的な時期を明らかにしておらず、JR関係者が目途に言及したのは初めてのことです。

と自治体からの補助で賄うものと見られます。既に熊本県負担分は2019年度補正予算案及び2020年度当初予算案に盛り込まれ、国負担分が明らかにするのはJR九州の申請後となります。なお、改正鉄軌法の適用は収支改善策などを盛り込んだ「長期運行計画」を国土交通省に提出する必要があり、青柳社長は提出時期を2月頃になるとしています。

熊本地本は、早期の運転再開にむけて、引き続き関係議員を通じて、県や沿線自治体への働きかけを継続していきます。

進む日米軍事一体化に警鐘

大分県玖珠町で連合日出生台集会



連合九州ブロック連絡会及び連合大分は、1月25日に大分県玖珠町の玖珠川河川敷で「米軍基地の整理・縮小と日米地位協定の抜本的見直しを実現する日出生台集会」を開催しました。集会には九州各地から4500人(うち、熊本地本4人)が集結して、基地負担の軽減と日米地位協定の見直しにむけた運動を全力で展開する決意を固めました。

この日、講演した東京新聞論説兼編集委員の半田滋氏は「今、日本の2箇所で日米共同訓練が行われている。今回の特徴はオスプレイが日本の民間空港を使っているという点。日米の軍事一体化は進んでおり、沖縄の騒音被害も拡大している」とし、連合が取り組む運動継続に期待感を示しました。

2020春季生活闘争勝利ボウリング大会

日時：2020年2月22日(土) 10時00分～

場所：ワンダーボウル南熊本本店

参加費：1,000円/人(貸シューズ代は個人負担)

締切 2020年2月7日(金)

参加希望者は分会役員又は地本事務所にお知らせください。

